

郷土資料 昭和四七年七月三十日調査

武州下町久里屋

高橋要藏の算額について

越谷市郷土研究会資料

目次	
高橋要藏の小伝	一頁
高橋要藏家系譜	二
同 道徳語	三
同 算額	四
石 解法 四解題	五
同氏関係年表	七

この図書は元会員・田熊仁之助さんのご遺志により田熊吉広さんからご寄贈いただいたものです。

関流 黒田半之助門人

高橋要蔵山伝

高橋要蔵 緯を安明と称し、法名に崇信士と号す。

武州下田久里造 高橋権右衛門次男として天保十二

年五歳に誕生す。幼年頃より聡明、教理に長じ或亦

手技に長じ人々を驚かす。

拾有歳にして、関流社條の長老武州大房吾黒田

半之助師に学ぶ。年貳拾就歳にして社條 見懸齋

伏題として撰せられた回答か。を下田久里吾平野屋

前第六天宮に奉納された。

「この真蹟の本文は後記」参照

其の後湘登下町下田ゆきと誓西、年三十一歳にし

て下田久里吾、一六九番地に分家して一家を創す。

時、明治四年九月十二日なりき。

爾来鋭意 農に勤み、問わるれば社條を教ふ。と

斯くて大正元年十月廿と日惚感として他界す年七二

法名 仁崇信士と号す。

子有り、長子故あつて江戸に出て次子隆次即後継者

となる、麗当主 友好氏にその裔也

初代要蔵、妻 下田ゆき等 昭和二年五月廿五日歿

行年八十三才

法名 法壽觀蓮信女と号す。

尚福源友好氏談

祖父は歿すの二ヶ月前、この位牌を遺された。様

観するに分家当初の齋語に相応しい父母の法号を表

に、又裏面にこの父母の次男で分家の年号月日、並

びに明治が大正と改元された月、是に自分の年令

等を彫つてある。余程のノミの達者な素人彫れした

格調高いものである。

表 父母

高顯 権右 信士

高分初代 於雲信女

商分初代 妻 藤信士 高橋要藏
明治十七年申年十二月廿二日

裏 表面

高橋 権右 延門 次男 二子 分家ス

明治四辛未九月十二日

明治四十五年 子八月 改元 大正元年八月

当家初代 高橋 要藏
七十二才ニテ建之

石本人 五人妻

仁 史 信士
大正元年十月廿七日
行年七二才

法弄 楓 信女
昭和二年五月廿五日
行年八三才

次子(分) 江戸

要藏 次男：一子一男四女 長子ハ三番目也

俗名 隆次郎

真 堂 隆 光 信士

昭和廿七年七月廿五日 歿七七才

妻 みよ 現在 元氣 好リ

果 凶

高橋 権右 信士

明治一七申年 十月 二十日 歿

妻 於雲 信女

兄弟 継々

次男 分家 俗名 要藏

仁 史 信士
大正元年十月 廿七日 歿 七二才

妻 法弄 楓 信女
昭和二年五月 廿五日 歿 八三才

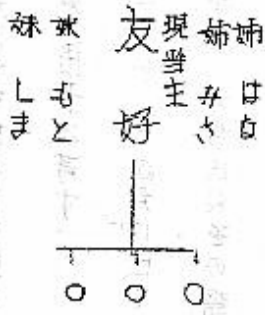
兄弟 長子 江戸ハ

俗名 隆次郎

真 堂 隆 光 信士
昭和廿七年七月 廿五日 歿 七七才

妻 みよ 現在 存着

菩提寺 迎 極 院 なうと。



友好氏談の二

寶岳、遺稿 其の他

1. 子弟教育の爲の教科書 一巻

算法通書 上巻

磯後 長谷善左衛門 弘明

藤岳 古谷定吉道生編

2. 官家用叢書 むぎ打ち其証銘

明治三十八年 月

高橋要蔵所有

3. 現存しないが最近見あつたと

腹其山屋 志棟

候 要蔵自ら建立したと

4. 大工道其一式

いろいろ造つたり刻したりした

ものであつた云われた

5. 其の他 採せばまだ何かは残つて

いるが何しであるかわからない。

以上

参考

この項の和算で有名な人々 調査の必要ある人々

1. 系流 明らかなる人物

最上流

香藤繁之丞

金田安明

大原利明

若生方面 増田十蔵
川越りり 川原行藏系へ

石川喜則

齊藤岩蔵

(越谷の人)

(越谷の人)

2. 風世半と郎良長——高橋要蔵(本籍人物也)

右調査の結果(昭和四年三月三十日)

越谷市郷土研究会幹事同市立図書館長

地元会員

新井隆一郎

理事

三原善太郎

越谷市立図書館長 野口泰助、同高校大谷恒義編の埼玉の尊厳
資料系亦二庫(埼玉県立図書館発行一〇七頁)注「亦二行目の
中以下二「高田要蔵・高橋要蔵、高橋要蔵」の三者中高橋要蔵
と統一すべきである。最後の心当り人物不明」は下同又甲「元九
番地等入分家跡正然たり 依而 訂正すべき必要がある。はお
其の疎明 山形大学保管「佐久間文庫」の二資料の訂正方も生
かすであらう。

4- 算額の内容

今有圓内加圓隔等積

其定外圓背谷同七箇各三

個只云乙圓徑一十二

分向外圓徑幾何

答曰 外圓徑一十

解文 上段參照

圓の中乙の直徑が十二二分の時外圓の大圓の直徑を求める問題です

答は一丈七寸

計算法は

$$\frac{12 \times 12 \times 85}{2}$$

と云つた意味である

「時」 圓の内乙圓の直徑を知つて外圓の直徑を求む

$$\frac{12}{2} - \frac{12}{2} = 0$$

$$\sqrt{(25)^2 - 12^2} = \sqrt{57^2} = 7\sqrt{3}$$

$$4 \times \sqrt{3} = 4\sqrt{3}$$

$$4 + 4 = 8$$

$$4 + 4 = 8$$

$$12^2 + 8^2 + 8^2 = 0$$

武井崎玉郎新方領

日光道中大房匠

行年七十四歳翁

黒田半七郎門人

月形同郡下田久里彦

高階要藏

改高階要藏

行年廿二歳學士

文久二壬辰六月十五日

$$\begin{aligned} & 1 - (2+4)^2 + (4+4)^2 + (4+4)^2 \\ & 11 - (2^2+2^2+4^2+4^2) + 4^2 + 2 \times 4^2 + 4^2 + 3^2 \end{aligned}$$

$$4z^2 + 2z\bar{z} - 2z\bar{z} - z^2 = 0 \quad \text{②}$$

$$- \frac{甲}{2} + \frac{外}{2} = \dots \text{辰} \quad \text{辰} + 2 = \frac{甲}{2} + \frac{外}{2} \quad \text{巳}$$

$$巳 \times \sqrt{3} = - \frac{甲\sqrt{3}}{2} + \frac{外\sqrt{3}}{2} \quad \text{丑}$$

$$巳 + \frac{外}{2} \quad \text{寅} \quad \boxed{- \frac{甲}{2} + \frac{外}{2} + \frac{外}{2} =} \quad - \frac{甲}{2} + \frac{3外}{2} \quad \text{卯}$$

$$\frac{甲}{2} + \frac{外}{2} \quad \text{卯} \quad - 甲^2 + 外^2 + 丑^2 = 0$$

$$\boxed{- \left(\frac{甲}{2} + \frac{外}{2}\right)^2 + \left(-\frac{甲}{2} + \frac{3外}{2}\right)^2 + \left(-\frac{甲\sqrt{3}}{2} + \frac{外\sqrt{3}}{2}\right)^2 = 0}$$

$$- \left(\frac{甲^2}{4} + \frac{2甲外}{4} + \frac{外^2}{4}\right) + \frac{甲^2}{16} - \frac{6甲外}{16} + \frac{9外^2}{16} + \frac{3甲^2}{16} - \frac{6甲外}{16} + \frac{3外^2}{16} = -\frac{20甲外}{16} + \frac{8外^2}{16} = 0$$

$$-5甲 + 2外 = 0 \quad 甲 = \frac{2外}{5}$$

$$(1) \text{ 代入 } \frac{外}{2} - \frac{z}{2} - \frac{2外}{5} = z \quad \boxed{- \frac{z}{2} + \frac{5外}{2 \times 5} - \frac{2 \times 2外}{2 \times 5} =} \quad - \frac{z}{2} + \frac{外}{5} = z$$

$$(2) \text{ 代入 } \boxed{\begin{aligned} &4 \left(-\frac{z}{2} + \frac{外}{5}\right)^2 + 2 \left(-\frac{z}{2} + \frac{外}{5}\right)外 - 2z外 - z^2 = 0 \\ &4 \left(\frac{z^2}{4} - \frac{2z外}{20} + \frac{外^2}{100} - z外 + \frac{外^2}{5} - 2z外 - z^2\right) \\ &= z^2 - \frac{2z外}{5} + \frac{4外^2}{25} - z外 + \frac{外^2}{5} - 2z外 - z^2 \end{aligned}}$$

$$\frac{x^2}{25} - \frac{27x}{5} + \frac{x^2}{5} - 32x$$

25 X 5 並架し

$$5x^2 - 5027x + 25x^2 - 3752x =$$

$$30x^2 - 4252x = 0$$

$$-5x \text{ で割り } -6x + 252 = 0$$

$$x = \frac{252}{6}$$

註 各々直筆の語を懸しました。□内は、原文中
 置かれている部分で、細註上 証字したに過ぎな
 50

1 昭和四十三年十一月四日 越谷地区原標調査
 基礎資料として複製する。

2 この資料は、山形大学の佐久岡文庫による物で
 同大学の松岡元久教授の御厚意により知る
 ことが出来深く感謝する次第です。

熊谷市立図書館長 野口泰助 識

以上 昭和四十三年六月第一回調査に対する野口
 泰蔵氏の又回答札紙より抜粋して参考に資す。

関係年譜

一、六四二	寛永十九年岡孝和生る
一、七〇四	宝永元年岡孝和没六三才
一、七四七	延享三年岡安昭生る
一、七六六	安永江戸へ上る
一、七八一	天明元年藤上流として関流と學術論争に入る三五才
一、七八九	寛政元年黒田半七郎良長大房に生まる
一、八四一	天保十二年高橋其謙下向久生る 黒田半七郎良長大房に生まる
一、八四五	文化二年藤上流の妻たる女、相室不可家に生まる
一、八六二	文久二年要職二十才にして下向久里藤上天社へ歸郷奉務す(岡流黒田半七郎門人として)
一、八七一	明治四年と三十一才 分家す。
一、八八四	明治十七年父藤上河門没す 十二月廿二日 法名高嶽権右衛門と号し 照源院へ葬る
一、九十二	大正と改元八月、父母の位牌に分家月日、明治改元大正の二と自ら彫刻して記念となす
一、九二七	同年十月廿七日没 年七十二才 法名、上峯信王と号す 妻六八才の時也 二子隆次郎繼ぐ
一、九六二	昭和二年五月廿五日 妻没八十三才 法名 法壽徳信女と号す
	昭和三七七年七月廿五日 相室二代岡藤次郎没 年七十七才 真堂隆光信と号す
	前日藤上世友好後を継ぎ今日に至る 二世妻より前室在也

在 昭和四十年七月廿日現在

註 三原延平編年譜